

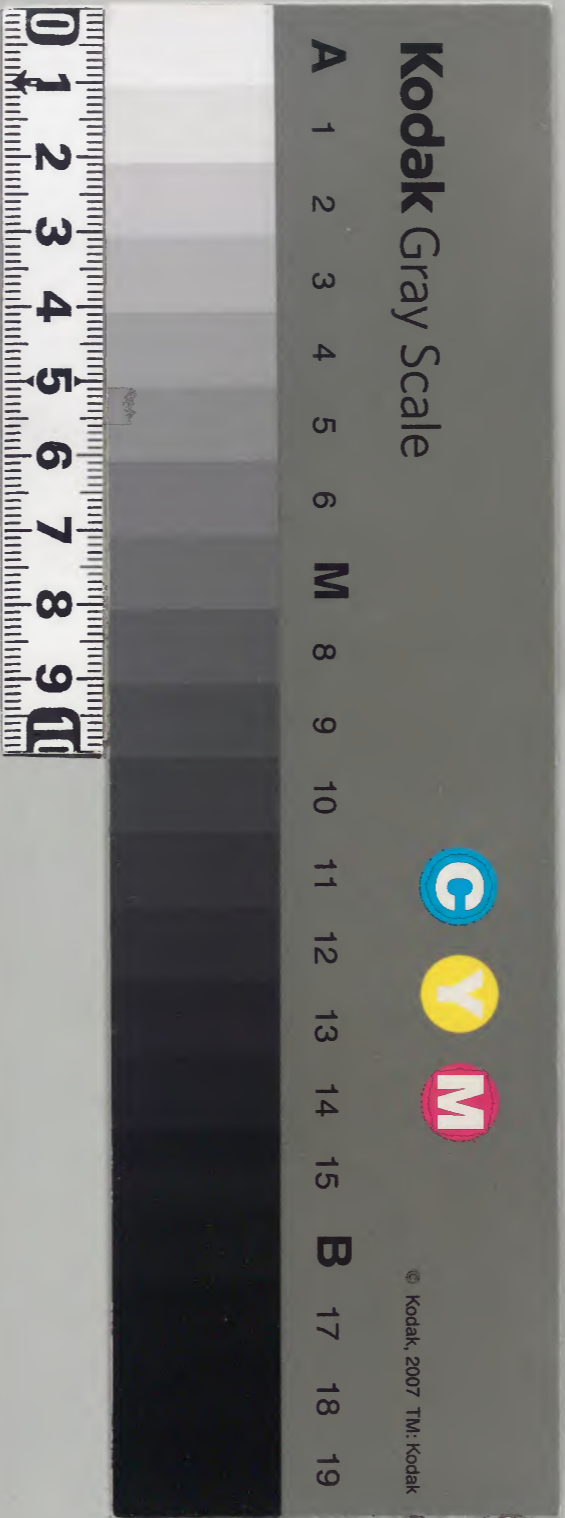
東武寶錄

六五

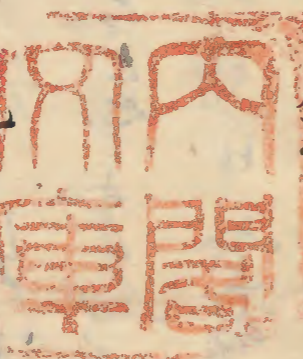
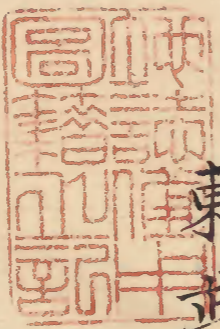
|      |          |
|------|----------|
| 内閣文庫 |          |
| 番號   | 和 36646  |
| 冊數   | 21 ( 3 ) |
| 函號   | 150 16   |

|      |   |     |
|------|---|-----|
| 内閣文庫 |   |     |
| 架    | 冊 | 類   |
| 五    | 二 | 三十五 |
| 九    | 一 | 五   |

(三和)



東武實録卷第五



和五巳年  
自正月  
至七月

江戸、城歳旦ノ賀儀例ノ

如ク諸士参賀ス

同七日 中西伊豫守元安卒ス

同十四日 土岐山城守定義卒ス四十歳

二月十日 仰出廿九、御制法

條々

一 或はし御の御事不足なり申中留小省にて

一 申事左一切申了御事

付一 申事左御事申了之御事御事申了之御事

申了御事

一 人言累切御事申了御事

一 科の御事申了御事

一 旨事申了御事

付一 旨事申了御事

一 旨事申了御事

旨事

一 旨事申了御事

旨事

一 旨事申了御事

一 旨事申了御事

旨事

一 旨事申了御事

旨事

旨事

一 旨事申了御事

四書付録後略く了水信の事

右了水信の事

元和五年未二月十日

是

一 唯このしに七名爲江の島主人  
お庵了水也但御陳四上諸口等諸之始  
信忠は水信の了水侯の事以て  
名爲ははるが系有始列の案了合言上  
又左の御に上川能子と案とて了水信の

了水信の事

一 名爲者信人の事了水信の切利也  
信人より之れに御の事

一 御陳四上諸口等諸信の御名爲ははる列の  
物事より信の信人より尋出の事  
信上了水信未於御の事信人の事  
有之科了水信の切利一信人の事  
了水信の御の事御の事御の事  
一 名爲者御の事御の事御の事御の事  
人の御の事御の事御の事御の事

細ふきり女形也此種人乏絶也  
形々ハ信人ノ方より波州へ名譽  
弟後ハ信人ノ方より波州へ名譽  
その信人ノ方より波州へ名譽也  
一 公海に信信を相省名爲に信信科定去  
信人ノ方より波州へ名譽也  
信人ノ方より波州へ名譽也

元和五年二月十日

三月十八日 細川玄蕃頭興元 兵部大輔 藤孝男 卒ス

五十七歳其子興昌 後玄蕃頭 任ス 父興元カ家督ヲ

継ク

是月 酒井宮内大輔忠勝越後國高田ノ城

采地十方石ヲ轉シテ信列松代ヲ賜ル 領地負數 元ノ如シ

高田ノ城食邑二十四方石松平伊豫守忠昌 推中 納言

秀康卿ノ二男 賜ル時ニ

公稻葉佐渡守正成ヲ 召テ 命有テ曰ク汝麾

下ニ奉仕ス然ルニ今忠昌弱年ニシテ大祿ヲ賜リ

國政ヲ安堵セス正成老成ノ人タリ忠昌ニ副テ

高田ニ赴キ國務ヲ議スヘシ然ラハ正成高田

ニアリト云ハ猶幕下ニアルカ如クナラシ  
久レク高田ニ置ヘカラサルノ由  
御旨ヲ蒙ル時ニ越後國系井川ニ於テ食邑  
一萬石ヲ正成ニ賜リ忠昌ニ從テ高田ニ在リ

是春

公松平陸奥守正宗カ宅ニ渡御アリ先コ數寄  
屋ニ入御御茶過テ後廣間ニ出御猿樂  
上覽アリ正宗ニ賜モノ其數多シ其子義作守  
忠宗<sub>後陸奥守ニ任ス</sub>御腰物包永ヲ賜ル  
四月十六日 松平源太郎正村<sub>壹岐守正始テ</sub>

公ニ謁ス

同二十日 秋田伊豆守俊季<sub>城介實季男</sub>

公ノ鈞令ヲ奉テ名ヲ河内守ニ改ム

五月八日

公御上洛トシテ江戸ノ城御首途アリ

是日 本多清兵衛正次

家光公ニ謁ス

同十五日

是

一 為家ノ内ニ所ノ長子ニ在リテ年長ク

福嶋のしる事其二日方也  
福嶋のしる事其二日方也  
福嶋のしる事其二日方也

六月十五日

是月

公御入洛

六月

福嶋左衛門大夫正則 参議 御制法ヲ

背クニ依テ安藝備後二刃ヲ没収セラレ信嘉  
河中嶋ニ謫セラレ其後<sup>子</sup>備後守忠勝同所ニ  
配流ニ同守忠勝配所 此時

公伏見ニ御在城アリ久世三四郎廣宣坂部三十郎

廣勝ヲ兩使トシテ江戸ニ赴シム時ニ

命有テ曰ク汝等江戸ニ到テ正則ニ

御旨ヲ告ヘシ若シ正則異儀ニ及ハ、松平下

総守忠朔松平式部大輔忠次烏居左京亮忠政

貞平九八郎最上源五郎義俊等兵ヲ發シテ

是ヲ誅伐スヘシ 御謀畧ノ 御書二通ヲ

以テ手自カラ久世坂部ニ賜リ且ツ奉書ヲ

持メ江戸ニ馳ス

福嶋左衛門大夫正則ニ賜ル奉書ノ趣

今夜、後物多法之事、正當此法、能  
曲事之云、思、以、受、被、地、了、之、被、神、言  
依此神言、梅、至、中、在、手、中、應、了、之、被、神、言  
之、也、云、  
治、出、之、知、之、事、上、在、中、而、除  
手、上、以、之、人、送、好、見、之、緣、事、是、不、佳、之  
仕、人、言、思、石、以、上、有、由、云、  
右、由、多、多、比、清、輕、了、之、事、也、云、  
少、也、新、事、

六月二日

安、後、對、了、言、  
正、信、

極、舍、伊、松、了、

瑞、筆、

六、升、古、物、云、

利、務、

本、多、上、手、云、

三、純、

酒、井、堀、步、云、

岩、世、

福、清、右、衛、門、云、

同、四、日、

本、多、彦、左、衛、門、清、政、

高、木、甚、太、高、清、方、  
力、男、也、清、政、了、從、弟、



本多甚久正近天正三年三品長祿ノ役ニ忠死ス嗣子  
ナキニ依テ大神君ノ命ニ依テ清政從正近ノ家督  
ヲ継テ卒ス六十三歳  
同九日 重テ奉書ヲ正則ニ賜ル

就西形ノ後 上段特也 治河吉茂房  
高摩吉と云々遺之 上意ノ執事細  
西人ノ為候候ハシク

六月九日

安後對了也

重信

極全何事也

瑞重

云升古物也

利緒

本多上世分

西純

酒井相宗既

忠世

福治右馬守是度

公任部 台命ヲ奉テ酒井忠世本多正純土井

利勝叔倉勝重安藤重信等牧野駿河守忠成  
花房志摩守幸家二三箇條ノ書付ヲ遣ス

是

一 右馬方丈所請次方酒舟高内如獨本多

後後如唐物ノ了如遣ノ事

一 右馬方丈同族行方如如輕是極次方

了如遣ノ事

一 重信弟陽子如財者右馬方丈所請次方

以高内如如了如遣ノ事如中ノ事如子

家付本如遣ノ事如事

六月九日

安後對了

重信

板倉信實

福重

古井古物

利勝

市多上如

西純

酒井新樂

馬世

物野路河多度  
花房志摩多度

久世三四郎廣宣坂部三十郎廣勝兩使トシテ  
江戸ニ至テ諸將ヲ集メ 台命ノ趣ヲ告ル是  
ニ依テ牧野忠成花房幸家二人福嶋左衛門  
大夫正則カ江戸ノ宅巖山ノニ赴キ奉書ヲ  
正則ニ渡シテ 御旨ヲ告テ云ク 公儀ヲ窺  
スレテ廣嶋ノ城新ニ石壁ヲ築キ地城ヲホ  
リ其郭内ニ繕フ事

大神君ノ御遺法ヲ背ク其罪道レ難シ早ク二刻ヲ  
捧ケ城ヲ渡スヘシ其身江戸ニアリ廣嶋海陸  
數百里ヲ隔ツ遠境ニシテ其意通レ難シ書翰  
ヲ以テ廣嶋ノ城ヲ避ケ渡サンコトヲ城ヲ守ル  
家人等ニ申遣スヘキノ旨兩使是ヲ演ル正則  
異儀ニ及ハス 命ニ從ヒ國ヲ退キ城ヲ渡ス  
ヘキノ旨手書ヲ以テ家人等ニ遣ハス江戸御  
留守居ノ諸將等兩使ト相議シテ正則モ  
異變ノ事アラハ速ニ是ヲ誅伐スヘシト  
兵ヲ集テ正則カ宅地ヲ圍ムト云ヘル正則

命ニ應シ異儀ナキニ依テ其事ニ及ハス

正則改易ノ事ニ依テ

家光公ヨリ鎗江甚右衛門和甫後越前守忠長主

ヨリ本多新七郎御使トシテ江戸ヲ發シ

伏見ニ赴ク時ニ伏見ニ於テ甚右衛門和甫

台命ニ依テ鎗江ヲ改メ宮城ト号ス

永井右近大夫直勝安藤對馬守重信安藝備後

ニ刃ヲ請取ル 上使トシテ伏見ヲ發シ藝

ニ赴ク加藤左馬助嘉明毛利甲斐守秀元安藝

備後兩國ノ地利ヲ知ルニ依テ直勝重信ニ差副

ラル其外南海山陽ノ諸將ヲ相向ラル時ニ

御朱印ヲ諸將ニ賜ル

條々

一 今度其善人致功年々事ハ書付可

令之候事ハ御事 上使トシテ

事

一 在テ不ク事ヲ秘古年不ク抑劣糧藉子

一 糧不ク伐採亦不從於小庭具ニ去不厚河

陸古古河古院等事

一 喧嘩口福等念候事  
一 双言了念事  
一 松本人ノ事  
一 今交上事  
一 主動ノ事  
一 百姓男女ノ事  
一 以合帝候了事

元和五年六月十二日

右望了事

加茂事  
生事  
松平事  
松平事  
生事  
松平事

同十九日 川井平太夫久吉卒六十三歳  
福嶋正則 台命ニ從ヒ備藝二刃廣嶋城

退キ渡スヘキノ旨家人等ニ云遣スノ手書牧野  
主馬助東条伊豆守是ヲ持シテ藝刃ニ起ク時  
中川半左衛門渡邊半四郎二人ヲ 上使トシテ  
牧野東条ニ差副ラル備藝二刃ノ檢使永井右近  
大夫直勝安藤對馬守重信ニ奉書ヲ賜ル

一 安藤備後守御辭退ノ旨渡邊半四郎  
備後守御信ノ旨金物野ノ旨  
廣治ノ旨  
一 三平磯田田中守山崎甲斐守  
備後守

陸奥守中ノ法信公ニ送ルノ手書  
協事

一 廣治ノ旨ノ取付地形ノ相違  
川退ノ旨  
一 松平長門守堀尾山城守ノ取付  
一 千之口ノ法信公ノ取付  
在諸國ノ了中ノ旨  
在諸國ノ了中ノ旨  
在諸國ノ了中ノ旨

子以志為歸也其志當正其行當直

六月廿四日

古井古物既

和梅

古多上北分

正純

酒升雅亦既

古世

西夜對子多從

酒升石之古亦從

藝列房臨城語九之語結

古在

酒升古月古物

古多繼後山

以馬之古在之古在古在古在

古多管懷古

定

一 法侍書子年法以果竹之地之古在古在

古多之古在

古自法下古之古在古在古在古在古在古在

一 河内 法無之 事

一 河内 法無之 事

安房 對 了 事

永井 古 始 記

一 此 之 人 亦 係 了 了 事

一 高 保 之 事 亦 了 事

一 海 中 之 事 亦 了 事

一 安 房 之 事 亦 了 事

六月 廿 二 日

古 井 古 始 記

利 務

在 多 上 之 事

西 純

酒 井 報 出 氏

忠 世

安 房 對 了 事

永 井 古 始 記

安 藤 對 馬 守 重 信 永 井 右 近 大 夫 直 勝 備 中 國  
笠 岡 一 至 一 使 廣 嶋 一 發 一 城 一 退 一 渡 一 又



へキノ旨ヲ福嶋カ家人等ニ云ヒ遣ス時ニ正  
則カ從士吉村又右衛門大橋茂右衛門輕卒  
百余人ヲ嶽嶽砲ヲ卒ニ隱戸ノ瀬戸ニ廣嶋ヨリ  
行程七里  
出向フ 上使安藤重信永井直勝  
鈞命ヲ演レ吉村大橋云テ云ク 台命敢テ  
背クヘカラス然リト云ヘトモ廣嶋ノ城ヲ守  
諸卒等城ヲ退散スヘキノ旨正則カ手書ヲ  
一覽セスンハ 台命ニ從ヒ難キ由ヲ申スノ  
旨ヲ云フ兩使聞テ正則ハ武刃江戸ニ在テ  
遙ニ數百里ノ海陸ヲ隔ツ今此旨ヲ云ヒ遣ス

ト云フ正則ニ通シ難シ幸ニ正則カ嫡子備後守  
忠勝京師建仁寺ニ旅宿ス江戸ヨリ京ハ其近キ  
事百余里ナリ忠勝ニ是ヲ云ヒ遣ハサハ彼カ  
手書廣嶋ニ至ルヘキト疾カラシ大橋吉村  
是ヲ聞テ云ク備後守忠勝ハ最モ正則カ  
嫡子タリト云ヘ正則カ其家督ヲ受ケス是ニ  
依テ安藝備後二刃ハ今正則カ領國ニシテ  
忠勝未タ是ヲ領知セス然ルニ其領主ヲ差置  
忠勝カ手書ヲ以テ證文トシ兩國ヲ渡スヘ  
キニ非スト云テ廣嶋ノ城ニ指籠リ防戦ヲ

遂ニト促マ城ヲ守ルノ兵士等統テ四千余人  
此外  
三原ノ城ハ 梶田出雲守是ヲ守ル  
鞆ノ城ハ 大崎玄蕃是ヲ守ル  
神邊ノ城ハ 福島丹波是ヲ守ル  
三吉ノ城ハ 尾関監物は是ヲ守ル  
東条ノ城ハ 長尾隼人は是ヲ守ル  
兩使重信直勝及ヒ此地ニ集ル諸將等既ニ  
兵ヲ發シテ城ヲ攻ント欲ス廣嶋ノ城ヲ守ル  
弱兵等多勢城ヲ圍ム事ヲ聞是ニ臆シテ狹間

ク、リ瞬ヲ棄越工城外ニ北ケ出ル者七十三人  
牧野主馬助東条伊豆守二人正則カ手書ヲ  
持シテ廣嶋ニ至ル安藤重信永井直勝等伏  
見ヨリノ 御下知ヲ聞テ牧野東条二人  
城ニ入ル、城ニ籠ル所ノ諸士正則カ手書  
ヲ披見スルニ安藝備後兩國辭退ス二刃ノ  
城々速ニ退キ渡スヘキノ旨ナリ是ニ依テ正則  
カ家人等異儀ナク城々ヲ渡ス備藝二列ノ  
諸城兩使是ヲ請取ル廣嶋ニ逗留スルヲ二十日  
余二刃ノ事ヲ沙汰シ畢テ歸路ニ赴ク

同二十四日

松平宗兵衛忠貞

主殿助家 伏見

於テ卒ス三十二歳

七月二日福嶋左衛門大夫正則始ハ津輕ニ配流

セラレ、旨ニテ彼地ニ於テ食邑四万五千石

賜ルノ処ニ其所ヲ轉セラレ越後信濃ニ加ニ

於テ食祿ノ負數津輕ノ如ク賜テ配所ヲ

信濃河中嶋ニ改メラル時ニ奉書ヲ正則ニ

賜ル

一 兼今世長江船を為る信方酒井

其内由指物也餘以与右有人知以到在下

以津輕くも口了五ふふ了はるく言は

作由は委細を古は事解与物解雜行与

初二房志解与浪山之人了取是言は

七月二日

古井古物記

利務

古多上地分

西純

福井家記

古世

福清江馬古史及

同二十一日 是年國々所替ニ依テ  
仰出寸ル、ノ趣

國替條々

- 一 武具主ハ法廷具置地ニ所ハル御用事
- 一 竹木一切亦テ芳採事
- 一 生細区一ニテ事
- 一 程得一ノ子種多ク也一ニテ錠得同也

於テハ區々事ニ事

一 借扱ハたがひハ此等事多ク

一 未進ハ亦條々ニ事

一 未進ハ亦條々ニ事 未進自前

亦條々ニ事

一 家僕之條々ニ事 亦條々ニ事

一 手奉一切亦亦如之 亦條々ニ事

一 亦條々ニ事 亦條々ニ事

一 亦條々ニ事

一 亦條々ニ事

元和六年七月廿一日



是日

嶋津兵庫頭義弘参議卒ス八十

五歳時ニ薩摩守家久後大隅守京師ニ在リ

暇ヲ賜テ薩加ニ皈回ス

同二十二日 福島正則配所ノ領地ヲ轉セラル

ニ依テ重テ奉書ヲ賜ル

急公ノ力ニシテ急事 作也御後急事

郡ノ内ノ中ノ事ニ事ニ以テ可ク事ニ事

下ニシテ物ヲ升ニ動ル島ノ市川ノ事

ノ事ニ事シテ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事

ノ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事

七月廿二日

七升古物記

利徳

極念候方古

福重

南多ノ事

西純

福井新

古世

福徳臣等上奏

同二十八日 台命ヲ奉テ安倍四郎五郎正之大久  
保四郎左衛門忠成 後玄蕃頭ニ任ス 肥後日向兩國ノ  
境推葉山 一名那須山ニ赴ント欲ス此山險難ニシ  
テ往還安カラス 其道相良左兵衛長母カ所  
領球麻郡 肥後國ノ内ニ在リヨリ通路アリ是ヨリ先キ  
豊臣秀吉朱印ヲ彼山中那須久太郎同紀之助  
同左近ニ賜ル三人ノ輩毎年使ヲ以テ俊鷹ヲ  
献ス其後

大神君天下ニ統一統ノ時又 御朱印ヲ賜テ山中無事  
ナリ爰ニ於テ那須彈正ト云者アリ山中ニ蜂  
起シテ其黨ヲ促シ久太郎ヲ殺ス是ニ依テ山  
中大ニ乱ル相良左兵衛長母此事ヲ屢伏見  
ニ注進ス執事奉行入等是ヲ 台聽ニ達ス  
時ニ老臣等ヲ 召シテ彼山中徒黨ノ者ノ  
誅戮ノ事ヲ御評議アリ安倍四郎五郎正之  
先年肥後國ノ檢使ニ赴キ彼所ノ事ヲ相知ル  
ニ依テ正之ヲ 召シテ是ヲ問ヒ給フ正之九ヶ  
條ノ謀畧ヲ記シテ是ヲ献ス

公是ヲ 台覽有テ土井大炊頭利勝ニ  
命有テ曰ク此頃ノ評議可ナラス正之彼所ノ  
地利ヲ知テ言フ所ヲ御許容アルヘキノ  
御旨ナリ是ニ依テ安倍四郎五郎正之大久保四  
郎左衛門忠成ヲ兩使ニ定メラレ 命有テ  
曰ク兩使彼地ニ至テ相良長每カ兵ヲ用ユヘシ  
若シ多勢ヲ促ス事アラハ百馬左衛門佐直純  
又肥後薩摩ニ告ヘシ其餘豊後日向ノ兵士  
皆汝等カ意ニ任セ指揮スヘキノ旨  
台命ヲ蒙ル

東武實錄卷第六

元和五紀年 自八月  
至十二月

八月朔日 推葉山ノ兩使安倍四郎五郎正之

大久保四郎左衛門忠成今日伏見ヲ發シテ九列ニ

赴ク

同日 水野日向守勝成和弼郡山ノ城

采地六万石ヲ轉シテ備後國福山食邑十万石

賜ル公役ヲシテ新々ニ城ヲ築テ是ニ居  
ラシム

同七日 推葉山ノ兩使正之忠成豊列ニ至ル

同十四日 推葉山ノ兩使相良左兵衛佐長毎

カ居城未麻ニ著ク豊列ヨリ先立テ書ヲ推葉

山ニ遣ヒテ云ク兩使 鈞命ヲ奉テ山中ノ訴論

及ヒ鷹ノ巣田富等ノ事ヲ沙汰スヘキノ由ニテ

其地ニ赴ク然ル所ニ山中險難ニシテ人馬ノ

通路自由ナラス故ニ其地ニ至テ沙汰セン

アタハス山中十五歳ヨリ以上六十歳以下ノモノ

速カニ未麻ニ来ルヘキノ旨ヲ云ヒ遣ス山中ノ惡

徒等其謀畧ヲ察シテ是ニ應セス難所ヲ要害ニ

構テ是ヲ守ル兩使再ヒ書ヲ推葉山ニ遣ヒテ云

台命ニ従ハサルノモノハ兵ヲ山中ニ發シテ悉

ク誅伐スヘシト云是ニ於テ一揆ノ本人那須彈正

其黨三十余人山中ヲ出テ未麻ニ赴ク

同十五日 龜井豊前守政矩伏見ニ於テ卒

ス三十歳

同十八日 山中ノ惡徒等未麻ニ到ル人在テ

先達テ是ヲ兩使ニ告ル兩使竊カニ人數ヲ遣



シテ彼等カ帰道ヲ差塞キ悪徒等ヲ謀テ招  
キ集メ其刀劔ヲ脱シメ是ヲ搦捕リ朱印ヲ賜  
ル者ト一揆ノ徒黨ヲ分テ二墜トシテ其夜竊ニ  
一揆ノ悪徒等十九人ヲ斬罪ス

同二十三日 夜半ニ及ニテ大久保忠成安倍正之

未麻ヲ發シテ推葉山ニ赴ク山中ニ入ル道三筋  
アリ是ニ依テ兵士ヲ三隊ニ分テ是ニ赴ク其道峻  
阻ニシテ山高ク道細シ或ハ葛葛ニ取ツキ  
或ハ刀ヲ負攀上ル若シ道ヲ誤ル者ハ忽チ  
千仞ノ谷ニ陥ル漸ク四日ヲ経テ推葉山ニ至リ

山中二十六村ノ男女一千余人ヲ集メ其名ヲ記シテ  
是ヲ搦捕リ其奸正ヲ分テ悪徒ノ者百四十餘人  
是ヲ誅戮ス女子自殺ノ者殆ト二十人爰ニ於テ  
朱印ヲ賜ル族大ニ悦テ山中悉ク安堵ス

同二十九日 鳴津兵庫頭義弘去月二十一日

卒スルニ依テ薩摩國工 上使トシテ花房  
五郎左衛門職利ヲ遣ハサル時ニ 銜書ヲ  
薩摩守家久ニ下サレ白銀千枚ヲ香奠ニ  
賜ル

高志死多し旨は是如に命を以て

合原の河番真根子も抜きに御座り候  
たきし番御座り候事

八月廿九日

松平女薩摩吉良

花房是ヲ持シテ薩加ニ赴ク十月六日薩加ノ  
地ニ著クト云ヘ凡洪水ニ依テ滞留シ同十日  
鹿兒嶋ニ到ル

九月二日 推葉山ノ兩狭山中ヲ出テ日向

國細島ニ至リ是日舟ヲ發シテ伏見ニ赴ク

同十七日 春日ノ祭禮社役ノ事ニ依テ

中坊左近及ニ春日役者中ニ奉書ヲ賜ル

其の多し口縁不細成村あり能多し  
程ニ西沙尾鬼ニ至ルニ中女先知如幸あり和  
一國中古氣り候事

元和六年九月十七日 安反對多吉

古舟古物記  
極倉伊勢吉  
古多上地介  
酒井新楽記

中坊江出屋  
春日沼中

同二十一日 岡道琢始テ

公ニ謁ス

是月 土岐頼行 後山城守 榎初高槻ノ城采地

二万石ヲ改メ減シテ下総國相馬郡食邑一万石

賜ル此所ハ祖父藤藏定政カ舊領タルニ依

テナリ 此春父山城守定義卒ス頼行幼年タルニ依テ領地ヲ減セラレト云ヘトモ頼行成長ノ

後終ニ采地ヲ加賜セラレ

是月 松平紀伊守家信三列形ノ原ヲ轉シテ

榎列高槻ノ城食邑二万石賜ル

是月 高力榎津守忠房武刃岩槻ノ城采地

二万石ヲ改メ遠カ初濱松ノ城食邑三万石賜ル 外寛

一年五千石加賜

是月 朱印ヲ金地院ニ賜ル

定

一 任之和元年七月ノ先列ノ有唐苑彦彦彦

徳法宗出世ノ官資入院ノ紀式書古旧規

如先判之御由は系如件

元和六年乙未九月日

令地院

十月十五日

竹千代君御任官ノ事忠長頼房官位

勅許ニ依テ御禮トシテ大澤少将基宿大兵輔

御使トシテ京師ニ赴ク時ニ

禁裏ニ御太刀一腰白銀五百枚 國母ノ御方ニ

白銀二百枚ヲ献セラル

竹千代事系任程古納言ニ候

慮意系江合テ御人江官同前ニ候

仍有御礼古刀一腰銀子五百枚ニ付テ

官給ニ付 養正連程古は由給ニ付候

事ニ付

十月十六日 御得

廣橋氏

三浦氏

ふのきし竹千代事系御人官あり

作らざれば海よりあついでいふべき事  
國無の事と云ふ事の中に  
福多と云ふ事終るね二るまい事と云  
ふ事

して忠

向當田の事

是月 松平大隅守重勝下総國関宿、城食邑  
二万六千石ヲ轉シテ遠加横須賀、城ヲ賜ル  
領地負數  
元ノ如シ 駿河國府、城、城代トナル渡邊

山城守茂大將組ノ士ヲ引テ駿府、城番トナル  
其子監物忠山城守カ養子實ハ別ニ采地千石ヲ  
賜テ山城守ニ差副ラレ父ト同ク駿府、城ヲ  
守ル

是月 小笠原左衛門佐政信總加古河、城  
采地二万石ヲ轉シテ同國関宿、城食邑二万七  
百石餘ヲ賜ル

是月 奥平九八郎後義作守下野國宇津宮  
ノ城采地十方石ヲ轉シテ下総國古河、城食邑十  
一万石賜ル

是月 酒井雅樂頭忠世里見ニ於テ采地

一万石加賜セラレ

是月 酒井備後守忠利武カ内ニ於テ

食邑一万石加賜セラレ統テ三万七千石ヲ領ス

十一月五日 長田平四郎白久金平 白

公ニ奉仕ス

同十一日 松平市太夫忠次卒ス四十歳

同十三日 大村民部少輔純頼卒ス二十八歳其子

純信後因 藩守ニ父純頼カ家督ヲ賜

是月

公東國所々ニ御放鷹アリ下総國市川ニ於テ鉄炮ヲ

放テ給テ雁ニ中ル時ニ淺原又三郎是ヲ捕シト

水ニ入テ忽チニ凍死ス

公是ヲ憐ミ給フ

象光公ヨリ 御使トシテ土井左兵衛正次後三浦 三摩守

ト号 東金ニ赴ク 台命ニ依テ内藤左馬助

政長東金ニ供奉ス時ニ政長ヲ 御旅館ニ

召シテ采地五千石加賜セラレ 御脇指則重ヲ

政長ニ賜ル

十二月十二日 石川四郎兵衛重久卒ス二十八歳

條々

- 一人とわかきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事
- 一人と買ねあきりし喜みの死罪事

是事

一人と買ねあきりし喜みの死罪事

可事

一人と買ねあきりし喜みの死罪事

事

一 長年より事口海河より自然變じ山等  
 多し其意者のみ長しより之科多し  
 一 惟とと陸中して各處の者、苗主人上  
 取在り了ら地地口海河より各處海河  
 時ハ各處者ハ各列の東主領と主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 又ハ各處者ハ各列の東主領と主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 地取地取事引る事以事と事一鹿

一 清人ノ事ニ事ハ各處の者、苗主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 又ハ各處者ハ各列の東主領と主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 地取地取事引る事以事と事一鹿  
 一 清人ノ事ニ事ハ各處の者、苗主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 又ハ各處者ハ各列の東主領と主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 地取地取事引る事以事と事一鹿  
 一 清人ノ事ニ事ハ各處の者、苗主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 又ハ各處者ハ各列の東主領と主人上  
 取ら美形形事引る事以事と事一鹿  
 地取地取事引る事以事と事一鹿



可也... 於事... 一... 之... 人... 下... 出... 之... 事...

一公儀... 信濃守... 從五位下... 叙之

同晦日... 紀伊守... 任之

是月... 細川越中守忠真... 參議... 從三位... 剃髮之

是月... 遠山久兵衛友政卒... 六十四歲

是冬... 坂部三十郎廣勝與力... 月俸トシテ

上總國... 大多喜領... 於采地二千石賜ル

是冬... 龜井豊前守政矩カ男大カ... 後能登守... 任之

是年... 父政矩カ家督ヲ賜ル... 三時... 三歲

是年... 夏ヨリ冬ニ至テ東南ノ雲間ニ

夜毎ニ白氣アリ午角ノ如クニシテ數十丈又  
彗星火炎ノ如ク東北ニアリ

是年 真田信政伊豆守信 幸カ男 從五位下ニ叙シ

内記ニ任ス

是年 中納言賴宣卿後大納言ニ任スノ家臣安藤

帶乃直次水野對馬守重仲等願ヒ訴エテ云ク

賴宣卿ノ領國ヲ他カニ改メ轉セラルヘキ事

ヲ請フ執事等此旨ヲ

公ノ 台聽ニ達ス 命有テ云ク賴宣今領スル

所ノ駿遠二カハ是

大神君ノ 御賢慮有テ賴宣ニ賜リ置所也何ソ我

今是ヲ改メン直次重仲等重テ誓紙ヲ呈シテ

訴テ云ク賴宣頻リニ是ヲ願フ全ク私ノ旨ニ

アラサルノ由ヲ申ス此年福嶋左衛門大夫正

則安藝備後兩國ヲ除カル是ニ依テ紀伊國采

地三十七万石ヲ轉シテ安藝國及ヒ備後半國

四十万六千石餘ヲ淺野但馬守長晟ニ賜リ廣嶋

ノ城ニ居ラシム爰ニ於テ賴宣卿請フニ任セ

駿河遠江二カヲ轉シテ紀伊國及ヒ缺列ノ地ヲ

副ニ賴宣ニ賜ル食邑五十五万五千石其數ニ足ル

是年 青山伯耆守忠俊武列岩舟ノ城

食邑四万五千石賜ル

是年 本多上野介正純ニ下野國宇都宮

ノ城佐野江列ノ地統テ食邑十五万石賜ル

是年 本多出羽守正胤ニ采地一万石ヲ

賜ル

是年 升伊掃部頭直孝ニ江加ノ地五万石

加賜セラル

是年 松平下総守忠明攝刃大坂ノ城采地

十万石ヲ改メ和加郡山ノ城食邑十二万石賜ル是ニ

依テ内藤紀伊守信正大坂ノ城代トナル是ヨリ先

ニ爰ニ於テ伏見ノ城番止テ大坂ノ在番始ル松平伏見ノ城代

豊前守勝政松平石見守康安二人共ニ組ノ士

ヲ引テ此年ヨリ大坂ノ城ニ在番ス是年ヨリ後

宛毎年此城ニ

是年松平越中守定綱下総國下津間ノ庄ヲ改

メ遠列掛川ノ城佐夜郡原ノ庄曾我ノ庄食邑

三万石賜ル領地貞敷

是年 小出大和守吉英泉ノ初岸ノ和田ノ城

采地五万石ヲ改メ但馬國出石ノ城ヲ賜ル領地貞敷

如元

是年

松平周防守康重丹羽篠山ノ城  
采地五万石ヲ轉シテ泉ノ初岸ノ和田ノ城ヲ賜ル  
領地負數元ノ如シ後檢地ノ高一万石ヲ  
ソヘテ六万石ヲ領ス

是年

松平安房守信吉  
伊豆守信一ノ養子  
實ハ松平五郎忠  
吉カ上列高崎ノ城采地五万石ヲ改メ丹波國篠  
山ノ城ヲ賜ル  
領地負數  
元ノ如シ

是年

安藤對馬守重信下総國小見川  
食邑三万五千石ヲ轉シテ上列高崎ノ城采地五  
万三千石ヲ賜ル

万三千石ヲ賜ル

是年

古田大膳大夫重治勢列松坂ノ城采地  
五万五千石ヲ轉シテ石見國濱田ノ城ヲ賜ル  
領地  
負數元ノ如ク内五千石ハ  
丹波國ノ中ニ於テ賜ル

是年

丹羽五郎左衛門長重ニ食邑一万石  
加賜セラレ  
慶長五年長重石田三成ニ志ヲ通ス是ニ依テ  
浪遊ノ身トナリ翌年江戸ニ来テ芝ノ邊ニ  
開居シ赦免ノ事ヲ懇訴ス  
公先年ノ旧約ヲ忘レサセ  
メマハス一旦敵對ノ罪ヲ宥メテラレ  
召シテ麾下ニ  
屬シ常陸國古渡ニ於テ食禄一万石ヲ賜リ今又  
一万石ヲ加賜セラレ并テ二万石ヲ領ス

是年

小出信濃守吉親  
後對馬守ニ但馬國  
轉任ス  
出石ノ城采地三万石ヲ改メ丹波國園邊ノ城

食邑三万石ヲ賜ル

是年 青山大藏少輔幸成常陸國ニ於テ

采地一万石加賜セラレ御書院番御花富小十

人組統テ三組ノ頭ヲ兼役シテ評定ノ席ニ列

ス

是年 永井信濃守尚政上総國ニ於テ食邑

一万石加賜セラレ

是年 駒木根長次郎政次食禄七百石加賜

セラレ

是年 杉浦忠左衛門親俊ニ采地ヲ加賜セ

ラレ舊領統テ五百石ヲ領ス天正十八年ヨリ御納戸ノ

是年 板倉伊賀守勝重老衰ニ依テ其子

周防守重宗ヲ父勝重ニ相副エラレ京都ノ所

司代ヲ勤ム

是年 植村帶刀恭勝大御番頭トナル元和

公ノ命ニ依テ

是年 服部權太夫 台命ヲ奉テ今切ノ

関所ヲ守テ在番ス

是年 村瀬左馬助重治始儀貝小三郎ト号ス

ニ位

公ノ 台命ニ依テ頼房ニ属ス其子小三郎ニ

父左馬助カ領地二千石ヲ賜テ

家光公ニ奉仕ス

是年

公ノ命ニ依テ鳥井土佐守成次忠長主ニ属ス

是年

小野麻右衛門佐橋甚兵衛大御番

ノ組頭トナル

是年

深津弥七郎正貞御膳奉行ト

ナル

是年

山口駿河守直之城カ勿伏見ノ奉行トナル

是ヨリ先キ門奈助互工門宗勝山田

清太夫重次二人此役ヲ勤ム

是年

土屋辰之助數直 後大和守ニ任レ 又但馬守ニ改ム

公ノ鈞命ヲ奉テ

家光公ニ奉仕ス

是年

京師智恩院ヲ造営アリ宮城丹波守

豊盛是ヲ奉行ス

翌年豊盛京都ニ於テ卒ス造営イマタ 成ラス是ニ依テ其孫主膳豊嗣祖父

豊盛ニ相續テ奉行ヲ勤ム川勝信濃守 五味金右工門是ニ副フ

是年

平野遠江守長泰卒ス七十歳其子権平

長勝長泰カ家督ヲ継ク

是年

渡邊孫三郎勝

上使トシテ肥後國

三赴少 於壬午九月肥後國



東武實錄卷第六終

